

千葉県の気候変動影響と適応の取組方針について

温室効果ガスの排出をできる限り抑制したとしても世界の平均気温は上昇し、21世紀末に向けて気候変動の影響のリスクが高くなると予測されている。

この避けられない気候変動の影響に対し被害を回避・軽減する「適応」を進めるため、千葉県における気候変動の影響を整理し、県の適応の取組方針を策定する。

1 位置づけ・対象期間

位置づけ 千葉県地球温暖化対策実行計画に基づき適応を進めるための県施策の取組方針

対象期間 2030年度まで

2 適応の考え方

- 既に現れている気候変動の影響や中長期的に避けられない影響に対し「適応」していく
- 気候変動の影響の現状や将来のリスクを把握し、長期的な視点に立ち、社会、経済、環境システムの脆弱性を低減して強靱性を確保していく
- 気候変動による影響予測には不確実性があることを前提に、最新の情報を収集し知見を蓄積しつつ、順応的な管理により柔軟に施策を見直ししていく

3 千葉県における気候変動の現状

【年平均気温の上昇】

銚子地方気象台の観測では年平均気温が100年あたり1°Cの上昇

出典：「気候変化レポート 2015」（H28.3 東京管区気象台）

【真夏日の増加】

銚子地方気象台の観測では日最高気温が30°C以上となる日数（真夏日日数）が増加

出典：「気候変化レポート 2015」（H28.3 東京管区気象台）

【大雨事象の増加】

県内17か所37年分のアメダスデータでは、1時間降水量50mm以上の発生回数は増加傾向

（40年程度の傾向であるため、気候変動による傾向を確認するためには今後のデータの蓄積が必要）

（気象庁HPのアメダスデータをもとに県作成）

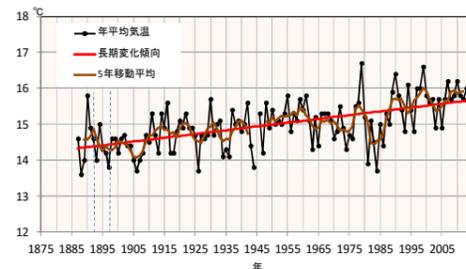


図 銚子地方気象台における年平均気温の経年変化

1892年と1897年（図中の青縦破線）に観測場所を移転しており、移転前の数値は補正した値。



図 銚子地方気象台における真夏日日数の経年変化

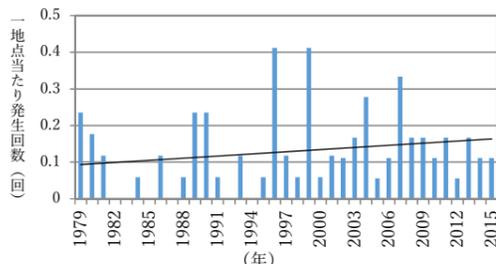


図 千葉県内17地点において時間降水量50mm以上となった回数（1地点あたり）の経年変化
直線は2次回帰による近似直線。回数は1地点当たりの平均。

4 千葉県における気候変動の将来予測と影響

数値の予測条件（温室効果ガス排出シナリオ等）は出典ごとに異なる

【年平均気温の上昇】

2100年頃に最大で4.2～5.0°C上昇



【影響の例】

農作物の生育障害など

【真夏日増加・冬日減少】

2100年頃に真夏日が約40日増加、冬日が約20日減少



【影響の例】

熱中症搬送者数の増加など

【大雨事象の増加】

2100年頃に時間降水量50mm以上発生回数が年間約0.3回増加



【影響の例】

水害の発生リスク増加など

出典：気温の上昇：S 8 温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究 2014 報告書
真夏日増加・冬日減少、大雨事象の増加：「気候変化レポート 2015」（H28.3 東京管区気象台）

5 各分野の主な影響と適応の取組方針

分野	主な影響	取組方針
農林水産業	米の品質低下等、水稻の生育への影響 病害虫による被害拡大懸念	高温障害軽減のための技術の開発・普及、病害虫発生予察等
水環境・水資源	印旛沼など閉鎖性水域の水質悪化等懸念 渇水の深刻化懸念	気候変動影響の調査と水質改善の取組推進 水資源の有効利用や渇水時対策の推進
自然生態系	ヒメコマツ絶滅の可能性 生物の個体数や分布の変化	千葉県ヒメコマツ回復計画の推進 県民モニタリング「命のにぎわい調査団事業」推進
自然災害・沿岸域	大雨事象の発生頻度(水害の発生リスク)増加 高波・高潮のリスク増大	社会資本総合整備計画の推進・防災対策の推進 潮位観測等の継続監視等
健康	熱ストレスによる死亡リスクの増加 熱中症搬送者数の増加懸念	暑さに弱い高齢者や子ども、暑さに慣れていない外国人への熱中症予防の普及啓発等
産業・経済活動	夏季の観光快適度低下等、観光への影響	変化する地域の状況や旅行者ニーズの把握
県民生活・都市生活	熱帯夜日数の増加等、生活への影響	ヒートアイランド対策等の推進